

津市の教育、学術及び文化の振興に 関する総合的な施策の大綱を策定

～夢や希望を持ち続けながら、自ら未来を切り拓く子どもたちを育むために～



平成29年1月6日

教育大綱策定の経緯

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正

平成27年4月1日施行

【趣旨】 地方教育行政制度改革

- 地方教育行政における責任の明確化
- 迅速な危機管理体制の構築
- 首長と教育委員会との連携の強化 等

津市総合教育会議の設置

市長と教育委員会により構成し市長が招集

市長は、あらかじめ総合教育会議において協議し、
教育、学術及び文化の振興に関する
総合的な施策の大綱（教育大綱）を策定

津市総合教育会議

平成27年 4月 1日

第1回津市総合教育会議

）

平成28年12月20日

第19回津市総合教育会議

主な協議・調整事項

教育環境の整備

小中学校普通教室のエアコン設置、
学校施設の活用に配慮した新町小学
校の大規模改造工事 等

学校教育内容の充実

全国学力・学習状況調査結果を踏まえ
た学力向上推進施策のあり方、小中一
貫教育、津市立みさとの丘学園（義務
教育学校）、いじめ対策、人権教育 等

子どもたちの育みへの取組

放課後児童クラブへの支援充実、
津市のこども園整備方針 等

文化財の整備、社会教育活動への取組

旧明村役場庁舎の保存活用、津城跡・
新しい時代の津市公民館のあり方 等

津市総合教育会議での教育大綱に係る協議・調整

津市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な
施策の大綱の策定に向けた考え方について

平成27年9月24日開催 第5回津市総合教育会議

津市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な
施策の大綱の策定に向けた取組について

平成28年2月24日開催 第10回津市総合教育会議

大綱策定の協議に向け、総合教育会議の構成員(市長と
教育委員)が、現場の皆様の声をお聞きする機会が必要

津市総合教育会議懇談会を開催

津市総合教育会議懇談会

現場教職員の代表や津市小中学校長役員会、津市PTA
連合会本部役員とテーマを設定せず、フリーで懇談

～津市総合教育会議懇談会から明らかになってきたこと～

先生の声

現場教職員
の代表

管理職の声

津市小中学校長
役員会

保護者の声

津市PTA連合会
本部役員

課題① 子どもたちと向き
合う時間の確保

課題② 学校経営のあり方
(校長の指導力の発揮)

課題③ 教育環境の整備

大綱の柱

網羅的な構成ではなく、市民の関心が高い学校教育を中心に、学校現場・保護者の声を反映

3つの着眼点

1 教員が子どもたちと向き合う時間の確保

2 組織的・機動的な学校経営

3 まち全体で子どもたちを支援する教育環境の整備

- 教育の具体の施策 ▶ 教育委員会で教育振興ビジョン等を踏まえ推進
- 学術・芸術文化・市民文化 ▶ 市長部局で総合計画等を踏まえ推進

1 教員が子どもたちと向き合う時間の確保

子どもたちの学力を向上させるために教員が子どもたちと向き合う時間を確保します！

- ① 期待される教員の姿
- ② 人的支援の充実
- ③ 特別な支援が必要な子どもたちへの支援
- ④ 学校教育と幼児教育の連携強化及び学校教育と連携した家庭教育の充実
- ⑤ 部活動
- ⑥ 小中一貫教育

2 組織的・機動的な学校経営

子どもたちや保護者に信頼される学校となるよう、組織的・機動的に学校を経営します！

① 効率的・効果的な学校運営

② 安心して学べる学校

③ 先進的な学校経営

④ 学校のさらなる防災力の強化

3 まち全体で子どもたちを支援する教育環境の整備

子どもたちを中心に
地域とともにある教育環境を整備します！

- ① 学校施設の整備
- ② 地域とともにある学校施設整備
- ③ 登下校時の子どもたちの安全安心
- ④ 放課後児童クラブの充実
- ⑤ 認定こども園の整備
- ⑥ 新しい時代にふさわしい社会教育環境の整備

津市の教育大綱は「めずらしい」

1

「ゴツゴツ」している

網羅的ではない

2

シンプルである

記載項目や字数が少ない

3

施策への切り口が違う

学校現場や保護者の声を踏まえ優先事項を絞って提示

他自治体の事例

他の自治体の教育大綱では・・・

- **これまでの施策を積み上げた網羅的・体系的な整理**
 - ⇒ 学校教育や社会教育などの既存分野の枠組での整理
 - ⇒ 記載項目や字数が多い
- **教育振興ビジョン等の既存計画の骨格を教育大綱として位置付け**
- **あらかじめ事務局から大綱の構成や文案を総合教育会議に提示**
- **総合教育会議において少ない開催回数で教育大綱を協議**
※大綱以外の事項も含めて総合教育会議の開催が少ない自治体もある

なぜ「めずらしい」教育大綱になったのか

総合教育会議を1カ月に1回開催して多くの課題を協議

- **教育環境の整備** 小中学校普通教室のエアコン整備など
- **学校教育内容の充実** 学力向上推進施策、みさとの丘学園など
- **子どもたちの育みへの取組** 放課後児童クラブの支援充実など
- **文化財の保護、社会教育活動への取組** 公民館のあり方など

教育大綱の構成を構築する前に学校現場の声を反映させるため、
津市総合教育会議懇談会を開催

課題① 子どもたちと
向き合う時間の確保

課題② 学校経営のあり方
(校長の指導力の発揮)

課題③ 教育環境の整備

3つの着眼点の整理

総合教育会議での議論や懇談会での現場の声を踏まえた教育大綱

学校現場の課題を解決していくための津市教育大綱

学校現場において、今解決すべき優先事項に着眼して整理

- ▶ 取組を進める中で新たな優先事項の発生
⇒ 総合教育会議で協議し、新たな取組への着手検討

教育大綱は必要に応じて見直し（教育大綱を自己目的化しない！）

社会経済状況の変化に伴う

教育ニーズの的確な把握

学校現場の声を反映した学力の向上などの教育施策
の目的や方向性を市民に分かりやすく発信